

大学研究室訪問

～医療・福祉のニーズをつかみ自社技術を製品開発へ！～

- 開催日時 : 平成 25年 3月 14日 (木) 13:30～17:00
- 開催場所 : 県立広島大学 保健福祉学部 (広島県三原市学園町1番1号)
- 訪問企画1 : 「県立広島大学保健福祉学部 (三原キャンパス) の紹介」
- 訪問企画2 : 「医療・福祉分野の各学科見学」
- 訪問企画3 : 「教員からのプレゼンテーション“こんなことができないか、こんな道具がつかれないか”」

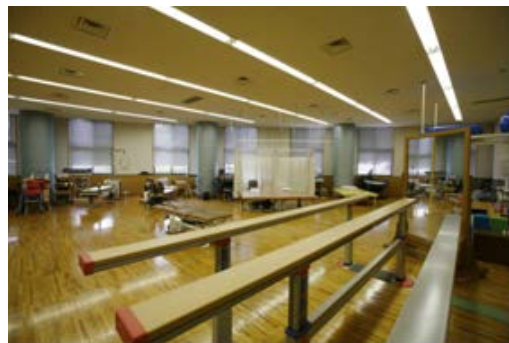
保健福祉学部の概要

県立広島大学三原キャンパス (保健福祉学部) の教員は研究者であると同時に、患者さんや障害児・者の治療やリハビリテーション、生活支援を行うスペシャリストです。

三原キャンパスには附属診療所もあり、多くの教員が脳卒中や発達障害児をはじめ様々な障害をもった方々の治療に携わっています。そのため、教員はエンドユーザーである患者さんや障害

児・障害者の福祉機器に対するニーズを日常的に理解しており、その適用とフィールドテストを行う中間ユーザーの立場にあります。教員は、担当する患者さんや臨床教育において、つくってほしい

機器や道具、遊具、教材等について様々な観点からの考察を行っています。



附属診療所

研究活動の特徴

障害者にとってやさしい道具や工夫は、一般の健康な人達にも役立つものでもあります。空前のヒット商品となって、今では当たり前となっている洗浄機付き便座も、両上肢切断の人の排泄の自立を意図して考案された福祉機器が原型となっていると聞きます。様々な疾患や障害をもたれた方々、あるいは介護者に接している医療・福祉の専門職がどのようなことを考え、どのようなものをつくってほしいと思っているのかを知る

ことは、福祉用具・機器等の企画・開発にとって重要な情報です。こうした現場レベルの要望は、病院等の医療現場においてはベッド

サイドニーズと呼ばれて重要視され始めています。

研究室を訪問・見学し意見交換を行ってシーズとニーズのマッチングをするという従来のスタイルとは視点を変え、大学教員を顧客と捉えて、三原キャンパスの教員が把握している具体的なニーズ情報の中から、自社技術を活かせる部分を見つけ出すという視点を持つことが重要と考えます。



歩行・バランス練習用平行棒

見学スケジュール

13:30～13:45 県立広島大学三原キャンパスの紹介

13:45～15:30 各学科・専攻・診療所の見学

- ・看護学科 ・理学療法学科 ・作業療法学科
- ・コミュニケーション障害学科 ・人間福祉学科
- ・助産学専攻科 ・附属診療所、他

15:40～17:00 大学教員からのプレゼンテーション

「こんなことができないか、こんな道具がつかれないか」

- ・ “今、こんな課題がある”、”こんなことで困っている”
といった、今そこにあるニーズについてお話しします。



発達障害児の治療遊具



身体機能改善機器

主催 公益財団法人 ひろしま産業振興機構